

あべこべゼロ魔

七夜士郎

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ゼロ魔であべこべ物です。価値観逆転のみで、美醜逆転はなしです。

キャラ崩壊が大量にあるため苦手な方はご注意ください。

目次

## 姉の目が怖いです

僕の名前は、アリス・アザレア・ド・ラ・ヴァリエール。

女みたいな名前だけど、歴としたヴァリエール家の息子である。

……まあ、昔の名前は、国野有栖で「やーい、不思議の国のアリス！」なんて言っつて、揶揄われたもんだけど。

え？ 昔の名前つて何かっつて？

……転生っつて言葉を信じるかい？

そう、その転生だ。

僕はトラックに撥ねられようとしている子供を助けようとして自分が……っつていうテンプレートパターンで転生したんだ。

びっくりしたよ。いきなり死んだと思ったら神様に「転生してみないかい？」だもんなあ……

まあ、僕が転生者っつていうう話は置いておいて……

最近になって気づいたんだけど、双子の姉の目が獲物を狙う獣のような目で怖いです……

姉の名前はルイズっつて言うんだけど……

「アリス……お願いがあるの……」

「お願い？ 僕にできることだったらなんでもするよ、お姉ちゃん！」

「ん？ なんでもっつていったわよね？ だったら……」

お姉ちゃんは顔をニヤリとさせる。

「パンツ見せて！」

「……………え？」

これである。

「そ、それはいくらお姉ちゃんでもできないかな……」

「なんでよー！ なんでもするっていったじゃない！ パンツ見たい  
パンツ見たい……」

パンツ見たいを連呼する我が姉。

いや、いくら姉でもパンツ見せるのは恥ずかしい。

「パンツ見たい。パンツみたい……パンツ……みたい？ つまり私こそ  
がパンツだった？」

あまりにも見たいせいなのかわけのわからないことを言い始めた  
我が姉。

「よしわかったわ。見るのはいいわ。私を下着として履きなさい」

「お姉ちゃんお姉ちゃん。カムバック」

姉はもうだめかもしれん。どうしてこうなった……

「こら、ルイズ！ またアリスにセクハラをして！

家族だからって許される限度という物がありますよ！」

そんな風に怒りながら入ってきたのは我が母のカーリーヌ母様であ  
る。

「私の弟が無防備で天使すぎるのが悪い！」

「それには同意しますが、それとこれとは話が別です！」

いつもの親子での口げんかが始まった……

これが僕のいつもの朝の光景である。

さすがにこう毎日この光景を見せられると鈍い僕でもこの世界の  
事情がわかる。

『この世界の男女の価値観は逆転している』

前世のネット小説とかで見かけた設定だが、まさか自分がそれになるとは思わなかった。

まあ、だからと言って何かするわけでもないけど。

「というわけで、私の弟は天使！」

「そうね。私の息子は天使ね！」

……うん。いつもの終わり方で決着がついたみたいだ。

「さあ、アリス。食事に行きましょう」

「お姉ちゃんと手をつないでいきましょう！　そうしましょう！」

さて……今日も騒がしくなりそうだ……